

カイカキボウ(粥掻き棒 かゆかきぼう)



(民具 No.3210)

カイカキボウは、小正月(旧暦の正月15日あるいは14~16日)に炊かれたアズキガイ(小豆粥)を掻き回す棒です。本資料は「カズの木」(ヌルデ)で作られており、持つ部分は皮を残し、粥をかき回す部分は皮を剥ぎ切れ込みを入れています。

本資料が採集された名栗地区(なぐりちく)では、カイカキボウの切れ込みの先端に繭玉の団子の輪切りを挟み粥の中に立てて掻き回す所作(しよさ)を演じ、その後、粥をつけたものを神棚に供えました。

『飯能市史 資料編VI(民俗)』には、粥を掻き回した棒の隙間に詰まった粥の多少で、その年の作柄を占ったとの記述があり、名栗でおこなわれていたものも元々は粥占(かゆうら)だったようです。